

<協議会参加者氏名>

山下真理 (PTA 会長)

田中恒子 (地域教育相談員)

西田芳正 (大阪府立大学教授)

仲島浩 (和泉市立和泉中学校長)

富永順三 (ナレッジパートナー(株)代表)

山野正広 (和泉市総務部人権・男女参画室長)

<当日の次第>

- 1 会長挨拶
- 2 令和2年度 学校経営計画の評価 ～ 令和2年度 学校教育自己診断の分析と評価を踏まえて ～
- 3 令和3年度学校経営計画の概要
- 4 本年度の進路指導について
- 5 校長謝辞

[主な質問、意見]

○は質問

●は意見や感想

→は答えや説明

○コロナウイルス禍で学校はどうであったのか

→今年度は学校行事ができなかった。修学旅行中止。文化祭は校内のみで実施。

体育祭も縮小開催。

→臨時休校が4回あった。しかしながら授業時数確保のため、6時間授業が続いたため、子供たちは逆に、学習の機会を多く持ったと感じている。プレゼンテーション能力が身についたと感じている生徒も多い。授業改善の成果がでてきたといえるのではないか。

○欠席や遅刻の状況はどうであったか。

→授業日が少なかった割に、遅刻が多かった。状況としては、生徒が休まなくなった。その分遅刻が増えたか。

●やすまずとりあえず学校に来る。学校を楽しんでいる生徒が増えているのはよい。

○学習状況はどうであるか。

→学習規律については生徒側にも意識の変化がみられる。教師の指導にも納得できる生徒が増えてきている。さ

らに改善を続けたい。生徒の教員の指導に対する評価も肯定的になってきている。生徒と教員の関わり合いの仕方の変化を教員に指導してきた結果が出てきているのか。教員が叱るだけでなく、きちんと筋道をたてて生徒に納得できるように説明しているところが定着してきたか。

→授業にかかわるところでは、すべて数字が上がっている。コロナの影響のなか教員の工夫が、生徒に伝わったか。

●全体として子供の信頼度が上がっているのがいい。

●子供の話をしっかり聞いてあげるのが一番大切。つらい話をしっかり寄り添って聞いてあげることが大事。自分の話を聞いてもらうことは心を動かす。

○R3年度の学校経営計画における変更点は

→基本はR2年度を継続する。

→観点別評価がR4年度から導入される。R3年度はそれに向けての試行的実施の一年となる。コロナ禍でグループ学習がなかなかできない中で、難しさを感じる。今後、教員の授業の在り方、生徒との関わり合い方が大きく変わっていくであろう。

→駄目のものはダメという指導を徹底する。教員がダメな理由を適切に生徒に説明できるようにするという文言を付け加えた。

○今年度の就職の状況はどうであったか。

→就職については厳しい1年であった。販売・観光という就職口がない

→いろんな業界があっという間に仕事があるということを生徒もが理解できるような仕組みを作っていきたい。様々な業界の人を学校に来てもらって、若者がどんな活躍をしているのかなど外部から人を呼んで講演してもらいたい。

●進学の子供もいずれは就職する。よい取り組みであると思う。

●卒業生に話をしてもらうことはよいと思う。その機会を作ってほしい。

実際に高校を卒業して、どんな仕事につき、どんな生き方をできているのか、先輩に語ってもらうことは効果的。失敗体験やしんどいことも含めて語ってもらうことは意味がある。

●地元の企業の人を一堂に呼んで、話をしてもらおう機会を作っている他校の例もある。

地元で働く人材を育成するという意味で意義がある。

●今後どう生きていくかを 実践的に教えてもらうことは大切。

●アルバイトから学ぶことも多い、アルバイトしている生徒の数を一度調査してはどうか。

●仕事について考える仕組みを作るのはとても良いこと

○クラブ活動についてはどうか。

→部活動については、学校としては力を入れたいが、なかなか数字が上がらない。

○人権学習についての数字も上がってきているが。

→人権の教育計画について3年間を見据えて作成した。結果が出てきたのでは。

→SC や SSWの活用もすすめている。地元の各市役所の担当者とも連携をとっている。

●学校をやめてしまうと生活に直結するするケースもある。子供がきちんと学校に来れているか。長期休みの間のケアも必要である。

●今年度から、小学校中学校でキャリアパスポートを作成している。それを高校でも活用してほしい。

●全体的に、いろんな数値がいい方向に動いている。長いスパンでこの傾向が定着するようにしてほしい。校長が変わったり、中心の教員が転勤したりすることによって、後戻りをしないようにしてもらいたい。校長先生によってそれぞれ視点が違うが、学校をよくしたいという思いは一緒であることは理解している。そのうえでの話でもあるが、後任にも引き継がれるような工夫をしてもらいたい。

●「学校の先生が自分のことを認めてくれている」「伯太高校に来てよかった」という数字があがったのはとても良い。歴代の校長先生の思いが良い方向に出てくれている。それにプラスして職業観を育成する仕組み作りを来年度から本格的に始めるとのこと。ますます良い学校になっていくものと期待する。

→伯太に行きたいとおもってきてくれる生徒が増えていることは学校としてはうれしい。魅力ある学校づくりに努めていく。

○進路状況については

→就職希望が減少 専門学校希望が増えている。

→就職には厳しい一年であったが、学校を通して就職を希望する生徒は全員内定が取れた。

職種によっては今後も厳しい状態が続くと思われる。求人については、物流は例年より多かった。飲食・販売は減少。販売は半減であった。

→一部の会社では、リモート面接・職場見学が行われた。またマスクを着用しての試験で表情を見てもらえないこともあり、発言の指導を強化した。

→進学に関しても、入試の在り方が変わってきている。プレゼンテーションの力を試したり、面接の代わりに論述を求める学校が出てきた。

→人数は少ないが、理系分野へ興味を持つ生徒も出てきた。理系分野への受験科目の対応が課題である。

→マスク対応、臨時休校中の受験、企業や大学によってバラバラでそれぞれ確認する必要があり大変であった。

→例年より、就職のスケジュールが1か月遅れたので、進学の指導と就職指導時期が重なり、全体として大変な状況であった。コロナ禍で、就職に進路変更したり、進学を辞退する生徒も増えた。

○奨学金の予約状況は。

→進学希望者の90%は予約する状況。やりたいことはあるが、お金をどう工面するかが鍵。

○奨学金の総額いくらで、授業料いくらで、中退するとすべて借金といった情報がどれくらい親や生徒に伝えられているのか。

→一応の取り組みはしているが、授業やHR、説明会等でしっかりと伝えるようにしていきたい。

○卒業後の追跡調査はどうなっているか。就職してすぐにやめる生徒もいるのか。

→就職については、例年若干名いる。

→5月の連休の頃、学校から卒業生に連絡し確認をとっている。また例年求人票を送ってくれている企業については 企業訪問して確認をする。

●卒業生の追跡調査はなかなか難しいのはわかる。往復はがきを出しても返ってこないケースが多い（他校例）

SNSやラインをうまく使って実施することも考えてはどうか。